

# 1. 評価報告概要表

作成日平成 19年 12月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム 笑顔		
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市三沢528-3		(電話)0942-73-1222

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月13日

## 【情報提供票より】(19年10月26日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人	

### (2)建物概要

建物形態	併設) 単独		新築) / 改築	
建物構造	木造		造り	
	1階建ての		1階 ~ 1階部分	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	南側 39,000円 北側 33,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)		有りの場合 償却の有無 有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

### (4)利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	67歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	本間病院・島田病院・白木歯科				
---------	----------------	--	--	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム笑顔は母体である医療法人の敷地内に建てられた新築木造の2ユニット平屋造りのホームである。周りにはプランタで花が飾られ、植木や花壇、芝生、小さいながらも菜園もあり花野菜づくりがなされている。ホーム内は限られたスペースの中にも思いやりの工夫が感じられ、共用空間はログハウス風になっており広さも十分で、のんびり安心して過ごせる環境である。医療面でのサポート体制もできておりホームの名称「笑顔」のように職員の笑顔が印象的で、利用者と共に明るく穏やかな日々を過ごしている様子が伺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、地域に対する運営理念の啓発。本人、家族の意見及びアセスメントに基づいた、具体的な介護計画の作成。市町村との関わり、周辺施設等の理解・協力が改善課題であったが管理者、職員は課題を共有し、具体的に取り組みいずれの項目も改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに個人面接等を行い自己評価の意義を説明し、理解を得たうえで課題や改善点を職員全員で話し合い積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>構成メンバーは区長、民生員、老人会長、市職員、家族代表、利用者代表、ホームより管理者、職員の参加により充実した運営推進会議が2ヶ月に一回開かれている。議題はホーム活動報告、地域からの報告、介護保険課や家族からの質疑応答、行事関係、利用者の状況報告等が行われサービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族アンケート 来訪時に意見、要望を聞いたり それとない質問などから意向を聞きだすようにしている。それらを介護会議にて検討し運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており地域の夏祭り、敬老会等地域行事に積極的に参加している。また、同法人の開催する運動会、餅つき等の行事に地域の方の参加もあり地元の方とも顔見知りなり地域との交流を深めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	笑顔とぬくもりのあるおだやかな毎日を...地域と結びつけた生活環境を大切に...」地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性を重視した理念となっており、ホーム内にも掲示され事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼の際に理念の読み上げを行い、日々の意識づけがなされている。ホーム理念を職員全員のネームプレートの裏に貼り付け、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており地域の夏祭り 敬老会等地域行事に積極的に参加している。また、同法人の開催する運動会、餅つき等の行事に地域の方の参加もあり、地域との交流を深めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとに管理者や職員がともに話し合っており、評価の意義を理解し、迅速な改善に取り組む質の向上に努めて改善されている。		外部評価の結果を踏まえ、管理者や職員で話し合い改善に向けて検討されているが内容を周知徹底の為に改善計画シートの作成が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーは区長、民生員、老人会長、市職員、家族代表、利用者代表、ホームより管理者、職員の参加により会議が行われている。議題はホーム活動報告、地域からの報告、介護保険課や家族からの質疑応答、行事関係、利用者の状況報告等が行われサービス向上に活かしている。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは相談、空き情報交換をしたり等、連携が取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに学ぶ機会を持ち、管理者、職員とも地域権利擁護事業や成年後見制度をパンフレットをもとに活用している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告については、個人ノートをもとに家族との面会時やケアプラン説明時に行っている。他に担当者が笑顔通信にコメントを書き手紙で報告し、必要などときには随時電話で連絡を取っている。金銭管理については金銭出納帳を毎月家族の方に見せて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、来訪時に意見、要望を聞いたり、それとなく質問などから意向を聞きだすようにしている。それらを介護会議にて検討し運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は3ヶ月前に申し出るように入職時に説明を行っている。新規職員と在職者のコミュニケーションの場として必ず歓迎会をしたり、個人的にも日常的に交流を深めている。1週間は担当を決めて教え合い、利用者には十分馴染む配慮がなされている。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用にあたっては特に性別、年齢などで断るようなことはしていない。本人の意思を優先することにより個々の能力を発揮できるように配慮されている。ボランティアなどの社会参加は優先的に行われ自己実現の配慮がなされている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	居室に入る際にも必ずノック、声かけを行い許しを得て入室している。人権尊重学習については、同法人が開催する年2回の接遇研修会で学習がなされている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	同法人の研修会及び勉強会に積極的に参加し、スキルアップに努めている。また外部研修会には各職員交代で参加し、全職員が共有できるように研修内容は月1回のユニット会議、介護会議の場で口頭、文書により報告する機会を設けている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の介護保険研修会やグループホームの管理者会合等に積極的に参加し、情報交換とサービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前には利用者と家族に来ていただきホームの雰囲気になれる工夫をしている。体験入居も1週間位設けており、入居後もレクリエーション、散歩、等を通して雰囲気作りを配り徐々に馴染めるように利用者十分な配慮をしている。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>季節の花植え、草むしり、料理等、それぞれのやり方を学びながら暮らしている。会話等を聞きながら共感し、職員は入居者とともに生活するものとして毎日を過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの状態や生活歴、本人の願いや家族の要望を把握してケアに活かしている。1日の生活計画を作成して利用者と一緒に行動しコミュニケーションを取りながら本人の希望、意向を汲み取るようにしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望、意向は日常会話、生活動作の中から汲み取り、家族の意向はプラン作成時や面会時の折に聞いて介護計画に反映している。計画作成担当者を中心に職員全員の意見を盛り込んで作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に3ヶ月の見直しが行われている。利用者の状態変化によっては、随時介護計画の見直しを行っている。</p>		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の指定を受け、健康管理や体調の急変に対応できるようにしている。本人や家族の希望により美容院、買い物などの個別対応をしている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて対応がなされている。主に併設病院からの往診をうけており、家族や本人、主治医、管理者が話し合い適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主に併設病院からの利用者が多く、重度化した場合や終末期の対応については、担当医からも説明をして頂き、本人や家族と、その都度話し合いをしながら方針を共有している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの尊厳を大切に、やさしく思いやりをもって対応している。個人情報に関わる書類は施錠保管しており、取り扱いに十分留意している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭いじりや趣味の手芸、裁縫などを教わったり、散歩、買い物、家事、レクリエーション等本人の希望と個性に応じた日常生活を大切に支援が行われている。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に野菜を切ったりむいたり食事の準備や片付けと一緒にしている。器具にも工夫されており、和やかな雰囲気の中で楽しい食事はできているが、一部の職員しか一緒に食事をしていない。		利用者と職員との関係作りなどの点から、同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べることが大切です。全職員が利用者とともに話をしながら同じ食事を食べながら、さりげなく支援することが望まれる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に合わせた曜日や時間で入浴を楽しめる支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人に合わせたレクリエーションを行い、季節ごとの花見、外食等で楽しみ気晴らしをしている。できる事はなるべくしていただき、草むしり、干し柿、大根の切干など今まで暮らしの中で自分でしていたことをそのまま続けられている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのグラウンドにゲートボールやグラウンドゴルフの見学に行ったり、コスモス、藤の花等を見に出かけた。季節感を味わい気分転換が図られている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り点呼を徹底しており、居室や日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルが作成されており、消防署の協力のもと年に消防訓練1回、避難訓練2回を行っている。併設する病院、地域の消防団、区長との応援協力体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の栄養士が管理しているので栄養バランスは取れている。食事摂取記録である日常生活記録を管理者、リーダー、夜勤者は毎日チェックし、状況に応じて水分摂取し不足しないように支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の共用空間はログハウス風になっており広さも十分で、壁には利用者の作品が飾られ、テーブルセットソファが置かれてのんびり安心してくつろげるようになっている。浴室は家庭的な雰囲気が保たれており、トイレも両面扉で使いやすく工夫されている。四季の花を生けて生活感、季節感を採り入れている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テーブル等の使い慣れたものや仏壇など本人が大切にしているものが持ち込まれている。壁には自作の作品や写真等が飾っており、利用者が安らげる場所となっている。		